

四柱推命による道徳教育

ポルノの是非

少年期の男の子がポルノを見ると、女性を肉体として見るようになります。すなわち、女性と接する場合、心のふれあいよりも先に、情欲の対象としてのみ女性を見るようになるのです。このような思考パターンがついてしまうと、女性とまともに付き合うことはできませんし、まともな女性からは相手にされません。その癖は大人になっても、中高年になっても消えるものではありません。つまり、結婚はできちゃった結婚になりがちですし、結婚しても平気で女性を買いますし、離婚再婚しても、新しい情欲の相手ができ良かったという程度にしか感じなくなります。ですから、親や先生は子供に責任を持つならばこの点には厳格であるべきです。女の子は男の子に比べ、性欲といっても情欲的なものは強くないのでさほど気にすることではありません。しかしポルノが性を商売にしたものであることは教えなければならない。

男の子と女の子の違い

この地球上において、男の子にとって最も関心がある存在は女の子であり、女の子にとって最も関心がある存在が男の子であることを教える。そしてそれは自然の理であり、おかしいことではない。そして、男の子の性はどちらかという、肉欲的なものが先行し、女の子の性は精神的な心の触れ合いが先行する違いがあることを教える。女の子のスカートが短ければそこに目が行ってしまうのは当然であり、へそだしLOOKを見れば、性欲が刺激されるのは当たり前である。従って女の子は、服装に気をつけなければならないということ順序良く教える。そして男の子の性欲刺激してできた彼氏は、ただ肉欲だけで近寄ってきた相手であることを教えなければならない。

ズル賢い男ほど優しく振舞う

女の子にはズルイ男の性癖を教える。女性がさびしい時に、ワルイ男は優しい言葉をかけて可愛がるものである。そしてそれに反応してしまうと墮落の道を転がり落ちてしまうのである。ズルイ男ほど寂しさを感じている女性を敏感に嗅ぎ取るものである。つまり自分が寂しい時に会った男はだめ。自分が最高の時に会った男が良い。家出少女が、行きつく先が決まって風俗であることはここに理由があるのである。

運命学から見た結婚とは

結婚は処女と童貞が一番良いということ教える。女性の処女は男性にとって何よりも尊いものであり、最高の信頼を得るものであることを教える。最近のTVや雑誌などでは処女では恥ずかしいなどとうそぶいたものが誇張されているが、これは巧妙に男性の処女願望心理が隠されたものである。結婚後、うちの奥さんは処女だったと満足そうに話すのが男同士の会話なのである。新婚初夜まで女の子は決して肌を男性に見せてはいけないといった教育が、由緒ある家系では行われるものである。男の子には女の子に対し責任ある行動をとるよう教える。避妊すれば、何をやっても良いという教育は男の子の自制心を破壊するだけである。ナポレオンは、「下半身を制する男が世界を制する」と言ったのは有名である。

運命学から見た個性とは

個性は天から与えられたもの、数学ができるとか、スポーツができるとか、人気があるとか、皆個性が異なる。数学が0点しかとれないのもまた個性であり才能なのです。学校で行うテストの能力に差はあって当たり前であり、他人と同じ個性である必要はない。個性に上下はない。個性の延長で人生の目標が決まる。個性が何かを見つけてあげるのが、親の勤めであり、仕事である。学校の成績つまり偏差値は個性の一部でしかないことを親がまず理解することである。東大卒が必ずしも良い仕事をし、良い人生を送れる訳ではない。むしろ中高年で使い物にならない元エリートが多い現実がある。